

佳作

祖父からもらった宝物

神奈川県 湘南白百合学園小学校三年 山田 百々香

私の祖父は、去年の春に重たい病気になりました。あと一年だと主治医の先生から言われました。

私は、いつも周りの人を思いやる、優しい祖父が大好きです。私が生まれてから祖父は、ほぼ毎日私の顔を見に私の家へ遊びに来ています。祖父と私は、どこへ行くのも一緒です。祖父は、

「娘にも孫にも恵まれて、幸せだなあ。我が人生に悔いはなし。」

と、いつも言っていました。

今年の五月、祖父は亡くなりました。とても穏やかな顔で、静かにお昼寝をしているようでした。今にも目を開けて、

「いらっしゃい、よく来てくれたね。」

と、言ってくれそうです。その日の夜、祖父と同じ部屋で、祖母と母とみんなで眠りました。

告別式の朝、私は、両親と一緒に祖父の胸の上にお手紙を置きました。手を握ると、私の手が祖父の指の中に包まれるように入って、ぎゅっと握り返してくれたみたいでハッとしました。祖父は、何度見ても目を開けてくれることはありませんでした。祖父が、お空へ出発する時が来ました。二度目のお別れだと思いました。私は、もう二度と祖父に触れることも、顔を見ることもできなくなると思い、涙が止まらなくなりました。涙は、どんどん溢れてきて、なかなか声が出せません。母は、私の背中をさすってくれました。私は、母に抱きついて泣きました。母が抱きしめてくれて、セーので一緒に、

「ありがとうございます。」

と、言うことができました。そして、祖父は、空へと旅立ちました。母と二人で願いを込めて折った鶴たちも一緒です。私は、祖父が、見えなくなるまで、ありがとうございます、と、心の中で何度も呟きました。

祖父と私は、亡くなる一週間前にお庭のブランコに乗って、二人だけの秘密の約束をしていました。

「お父さん、お母さんに優しくね。お友達は、大事にするんだよ。お空の上からいつも見守っている

からね。」

そう言って指切りをした後、祖父が、少し寒くなってきたと言うので、私は、膝かけをかけてあげました。祖父は、

「ありがとう。優しくしてもらって幸せだよ。」

と言って、嬉しそうに顔をくしゃくしゃにして笑いました。

今まで祖父と過ごした時間の全てが、楽しい思い出でいっぱいです。祖父は、いつも笑顔でした。お庭の桜の木をみんなと一緒に見た祖父との最後のお花見、亡くなる前日の夜に電話で聞いた優しい声、祖父との思い出は、私の大切な宝物です。

私は、大好きな祖父のことをこれからも、ずっと、ずっと忘れません。